

事業⑪ 沿線事業者や地域住民等との連携強化



概要

コロナ禍による需要の減少等により交通事業者の赤字額が拡大し、交通事業者の運営努力や行政の支援（補助金）だけでは公共交通を維持・確保していくことが難しくなっていることから、沿線事業者や地域住民等と連携・協働することにより、公共交通の維持に努めます。

事業例

○公共交通の運行時間に合わせたイベント等の開催

公共交通のアクセス状況や運行ダイヤを考慮し、可能な範囲でイベントなどの開催時間を調整するよう、市やその他施設、観光関係者等に呼びかけます。

▼米泉号の運行ダイヤに合わせて開催時刻を設定したサンサン体操

乗降場所	1便	2便	3便
北エリア 月・水・金運行		7:40	13:06
中央・東エリア 火・木・土運行		8:49	13:30
① 米川小学校前 (會式)	6:53	8:49	13:30
② 米川駐在所前	6:53	8:49	13:30
③ 米川郵便局前	6:54	8:50	13:31
④ 米川公民館	6:55	8:51	13:32
⑤ 中瀬	6:57	8:53	13:34
⑥ 米泉町	7:00	8:56	13:37

サンサン体操	
場 所	米川公民館
開催日	毎週月・水曜日 13:06～15:00
内 容	サンサン体操、ラジオ体操
費 用	無料
サンサン体操は、1974年（昭和49年）に開始されました。健康増進のため、広く参加・観望いただけるよう、取り組んでいます。	

○地域住民との協働の推進

地域コミュニティの維持・活性化のためには地域の移動手手段の確保が必要です。しかし、交通事業者や行政により全ての地域の移動手手段を確保することは困難であり、地域住民の共助*が重要となります。地域が主体となった移動手手段の確保や利用促進の取組の検討を行います。

▼赤郷コミュニティバス「あかまるごう」（美祢市）



資料：美祢市

デマンド型*コミュニティバス「あかまるごう」は、赤郷コミュニティバス運行協議会が運行しています。高齢者への生活支援という地域課題を解決するために、買い物や通院の支援だけでなく、健康、見守りなどを総合的に解決する移動手手段の役割を担っています。

○沿線事業者との連携による公共交通利用者へのインセンティブ付与の実施

公共交通を利用して商業施設等へ来場した客に対し、ポイントカードへのポイント付与、商品・サービスの値引きなどを検討します。公共交通の利用を促すと同時に、商業施設等においては公共交通利用者に対する集客力向上、渋滞の緩和や駐車場不足の解消などが期待できます。

- ▼「のんバス」の乗車証明を提示して
受けられる商業施設での特典



資料：広島県東広島市

○施設・イベント等主催者による公共交通に関する情報発信

各施設の最寄り駅・バス停・路線・時刻表などの公共交通に関するアクセス情報を、HP、SNS*、チラシ等に掲載するよう呼びかけます。

実施主体 下松市、交通事業者、沿線事業者、住民

実施時期 令和5(2023)年度～

3 事業のスケジュール

基本方針	目標	目標のために実施する事業	スケジュール（年度）				
			R5	R6	R7	R8	R9
基本方針1 これからのまちづくりと暮らしを支える公共交通							
	目標1-1 交通ネットワークの 基幹となる幹線と交 通結節点の維持・強化	①幹線の維持・強化	▶				
		②交通結節点*の機能の維持・ 強化	▶				
	目標1-2 市民のニーズを踏ま えた支線の再構築と 移動手段の確保	③支線の維持と見直し	▶				
		④実情に応じた多様な輸送資 源*の活用		▶			
基本方針2 分かりやすく使いたくなる公共交通							
	目標2-1 公共交通を利用しや すい環境の整備	⑤待合環境の整備や車両等の バリアフリー化	▶				
		⑥公共交通に関する情報発信 の充実	▶				
		⑦公共交通サービスのデジタ ル化の推進	▶				
	目標2-2 公共交通の利用意識 の醸成と利用促進	⑧モビリティ・マネジメント* 推進	▶				
		⑨公共交通の日常利用の促進	▶				
基本方針3 産・官・民のオール下松で支える持続可能な公共交通							
	目標3 関係者との協働・連携 による持続可能な公 共交通の構築	⑩公共交通の担い手の確保	▶				
		⑪沿線事業主体や地域住民等 との連携強化	▶				

4 目標達成状況の評価方法

本計画の達成状況を評価するための指標及び目標値を次のように設定します。

評価指標		基準値	目標値
全体的な指標	1. 公共交通の年間利用者数	1,908,454 人 (令和3年度)	2,050,000 人
	2. 「鉄道・バスなど公共交通の充実」に関する施策に満足・まあ満足と回答した市民の割合	14.5% (令和元年度)	18.0%
	3. 路線バスの収支率	48.5% (令和4年度)	現状維持
	4. 公共交通の維持に係る行政負担額	64,521 千円 (令和2年度)	現状維持
目標 1-1	5. 幹線バスの運行便数	185 便 (令和4年度)	現状維持
	6. 交通結節点*としての機能の整備件数	0 件 (令和4年度)	3 件
目標 1-2	7. 支線（市内完結路線）で鉄道への乗継を考慮した便の割合	79.5% (令和4年度)	現状維持
	8. 交通空白地*の居住人口の割合	25.1% (令和4年度)	18.0%
目標 2-1	9. 待合環境の整備件数	0 件 (令和4年度)	5 件
	10. ICカード*利用率（路線バス）	2.3% (令和3年度)	60.0%
目標 2-2	11. 乗り方教室・出前講座の開催回数	0 回 (令和4年度)	5 回
	12. 「日常生活における公共交通利用頻度」について週に1～2日以上と回答した市民の割合	7.1% (令和4年度)	9.0%
目標 3	13. 関係者と協働により実施した事業件数	0 件 (令和4年度)	2 件
	14. バス運転士の充足率*	86.9% (令和4年度)	100%

全体的な指標

評価指標	基準値	目標値
1. 公共交通の年間利用者数	1,908,454 人 (令和3年度)	2,050,000 人

算出方法

- ・下記の合計値とします。
 - J R山陽線及び岩徳線の市内駅の年間乗車人員
 - 下松市に関連する路線バスの年間利用者数
 - コミュニティ交通*の年間利用者数
- ・各交通事業者からの情報提供を受け、市がとりまとめます。

評価サイクル

- ・毎年度（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）

評価指標	基準値	目標値
2. 「鉄道・バスなど公共交通の充実」に関する施策に満足・まあ満足と回答した市民の割合	14.5% (令和元年度)	18.0%

算出方法

- ・市が実施する「まちづくり市民アンケート」により把握します。

評価サイクル

- ・5年毎（令和6（2024）年度）

評価指標	基準値	目標値
3. 路線バスの収支率	48.5% (令和4年度)	現状維持

算出方法

- ・市内に係る系統を対象に、各路線バス事業者から経常収益及び経常費用の情報提供を受け、合算値から収支率を算出します。

評価サイクル

- ・毎年度（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）※年度は前年10月～当年9月

評価指標	基準値	目標値
4. 公共交通の維持に係る行政負担額	64,521 千円 (令和2年度)	現状維持

算出方法

- ・下記2つの金額の合計値とします。
 - 路線バスに対する市の補助金
 - コミュニティ交通の運行経費から運賃収入やその他の収入を引いた金額

評価サイクル

- ・毎年度（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）

基本方針 1

これからのまちづくりと暮らしを支える公共交通

目標 1 - 1

交通ネットワークの基幹となる幹線と交通結節点*の維持・強化

評価指標	基準値	目標値
5. 幹線バスの運行便数	185 便 (令和4年度)	現状維持

算出方法

- ・路線バス（幹線）全てを対象とします。
- ・各年10月1日時点の運行情報を用いて、平日1日当たりの運行便数を算出します。

評価サイクル

- ・毎年度（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）

評価指標	基準値	目標値
6. 交通結節点としての機能の整備件数	0 件 (令和4年度)	3 件

算出方法

- ・市内の交通結節点におけるデジタルサイネージ*の設置、パークアンドライド*駐車場の整備、サイクルアンドライド*駐輪場の整備等を対象とし、延べ件数を市が把握します。

評価サイクル

- ・毎年度（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）

目標 1-2

市民のニーズを踏まえた支線の再構築と移動手段の確保

評価指標	基準値	目標値
7. 支線（市内完結路線）で鉄道への乗継を考慮した便の割合	79.5% (令和4年度)	現状維持

算出方法

- ・ 鉄道駅は、市内にある鉄道駅とします。
- ・ 路線バスから鉄道への乗継、鉄道から路線バスへの乗継を想定し、鉄道と路線バスの発着の間が5分～15分以内の便を「乗継を考慮した便」とします。
- ・ 複数の鉄道駅を発着又は経由する便は、いずれか1つの駅で上記の基準を満たせば、「乗継を考慮した便」とします。
- ・ いずれも各年10月1日時点の運行情報を用います。

評価サイクル

- ・ 毎年度（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）

評価指標	基準値	目標値
8. 交通空白地*の居住人口の割合	25.1% (令和4年度)	18.0%

算出方法

- ・ 交通空白地は、次のいずれにも該当するエリアとします。
 - 鉄道駅から半径800m圏外
 - バス停（乗合タクシー*の乗り場等含む）、フリー乗降*区間から半径300m圏外
 - デマンド運行の運行範囲外
- ・ いずれも各年10月1日時点の運行情報を用います。
- ・ 人口は、国勢調査のメッシュ統計を用います。令和4（2022）年度～令和8（2026）年度分までは、令和2（2020）年国勢調査結果を、令和9（2027）年度は令和7（2025）年国勢調査結果を使用します。
- ・ 人口メッシュ*と交通空白地の重複割合を人口メッシュの人口に乗じて、交通空白地の居住人口とします。

評価サイクル

- ・ 毎年度（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）

基本方針 2

分かりやすく使いたくなる公共交通

目標 2-1

公共交通を利用しやすい環境の整備

評価指標	基準値	目標値
9. 待合環境の整備件数	0件 (令和4年度)	5件

算出方法

- ・交通結节点*以外のバス停等に対し、交通事業者等による屋根等の設置、バス待合協力施設の新規登録、デジタルサイネージ*の設置等の実施件数をカウントします。
- ・毎年度末時点における延べ件数を市が把握します。

評価サイクル

- ・毎年度（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）

評価指標	基準値	目標値
10. ICカード*利用率（路線バス）	2.3% (令和3年度)	60.0%

算出方法

- ・路線バスを対象とします。
- ・交通事業者が毎年実施する乗降調査結果の支払い区分によってICカード利用者の割合を把握します。ただし、ICカードの定期券は除きます。

評価サイクル

- ・毎年度（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）

目標 2-2

公共交通の利用意識の醸成と利用促進

評価指標	基準値	目標値
11. 乗り方教室・出前講座の開催回数	0回 (令和4年度)	5回

算出方法

- ・市又は交通事業者等が主催・協力等する行事のうち、公共交通の乗り方や情報の調べ方など公共交通の利用促進に資する内容を座学・見学・実習等により学ぶことができるものを対象とします。
- ・市が事業者等への聞き取りを行い、延べ件数を把握します。

評価サイクル

- ・毎年度（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）

評価指標	基準値	目標値
12. 「日常生活における公共交通利用頻度」について 週に1～2日以上と回答した市民の割合	7.1% (令和4年度)	9.0%

算出方法

- ・市が実施する「下松市の公共交通に関する市民アンケート調査」により把握します。
- ・JR山陽線、JR岩徳線、路線バス、コミュニティ交通*（米泉号等）、タクシーのいずれか1つ以上で「週に1～2日」「週に3～4日」「週に5日以上」と回答した人の割合とします。

評価サイクル

- ・5年毎（令和9（2027）年度）

基本方針3

産・官・民のオール下松で支える持続可能な公共交通

目標3

関係者との協働・連携による持続可能な公共交通の構築

評価指標	基準値	目標値
13. 関係者と協働により実施した事業件数	0件 (令和4年度)	2件

算出方法

- ・異なる2者以上の団体等が協働して実施するもので、公共交通を活用したイベントや行事（ただしモビリティ・マネジメント*は除く）の実施、移動手段の導入、公共交通の利用促進策の実施等を対象とします。
- ・市が事業者等への聞き取りを行い、延べ件数を把握します。

評価サイクル

- ・毎年度（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）

評価指標	基準値	目標値
14. バス運転士の充足率*	86.9% (令和4年度)	100%

算出方法

- ・市内を運行する路線バス事業者の、路線バス運転士数を1日で必要な仕業*数で除したもの（貸切バスや高速バスとの兼務者を含む。事務兼務者など通常は運転業務をしていない者は除く）とします。
- ・各年10月1日時点の路線バス運転士数と1日で必要な仕業数で算出します。
- ・市が各路線バス事業者への聞き取りを行い、把握します。

評価サイクル

- ・毎年度（令和5（2023）年度～令和9（2027）年度）

5 事業の進捗管理と計画の継続的な改善

事業の進捗管理は、あらかじめ設定した評価指標により定期的に評価するとともに、社会経済情勢やニーズ等の変化に合わせて、適宜本計画の内容を見直し、改善する必要があります。

本計画の推進にあたっては、PDCAサイクル*（Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価・検証）、Action（改善））を活用し、下松市地域公共交通活性化協議会で定期的に評価・検証の上、必要な改善を図りつつ、本計画を推進します。

図31 PDCAサイクルのイメージ



図32 PDCAサイクル*による事業の進捗管理と計画の継続的な改善のイメージ
〔年度ごとの短期的なPDCAサイクル〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
下松市地域公共交通活性化協議会			(1)						(2)			(3)
Plan 次年度の計画							次年度の計画					
Do 事業実施	[Blue bar representing implementation]											
Check 評価指標の確認			●				指標1※、2、4※、5、7、8、12、14（※前年度分）			●		●
Action 改善案の検討							改善案を次年度計画へ反映					

〔5年間の長期的なPDCAサイクル〕

年	R5年度 (2023) (1年目)	R6年度 (2024) (2年目)	R7年度 (2025) (3年目)	R8年度 (2026) (4年目)	R9年度 (2027) (5年目)	R10年度 (2028) ~
Plan 次期計画策定					計画策定	
Do 事業実施	[Blue bar representing implementation]					新計画
Check 評価指標の確認	●	●	●	●	●	
Action 改善案の検討					新計画 へ反映	